出エジプト記の結晶の学び 第１週 神の啓示、そして神の救いと備えと啓示との目標としての神の建造

鳥瞰	このメッセージでは出エジプト記の中で神が大いなる方であることを啓示しています。神は、自ら存在し永遠に存在する神です。アブラハム、イサク、ヤコブの神です。ヘブル人の神です。イスラエルの神です。語る神です。契約の神です。主権ある神です。贖い救う神です。祝福する神です。いやす神です。人の中へと注入する神です。人に求愛する神です。手順を経て究極的に完成され、幕屋の中に住む神です。また神の建造が神の救いと備えとの目標であることを啓示しています。	
1日	❶「エホバ」この名前の意義を説明してください ❷わたしたちの神が求愛する神であることを説明してください。	❶ヘブル語でエホバという称号は「ある」という動詞の形態です。これは、エホバが唯一の自ら存在する方であることを示します。彼はかつてあり、今あり、将来ある方です。ただ彼にだけ「ある」という動詞が絶対的な意味で適用されることができます。神だけがあり、わたしたちと他のすべてのものはありません。 ❷聖書は真に求愛の書であり、わたしたちの神は人に求愛する神です。聖書ははっきりと、神が人に求愛しておられることを啓示しています。神が罪人をご自身に召すことは、彼が彼らに求愛する方法です。彼の召しは、彼を追い求める人々に彼が求愛することであり、それは彼らが救われるだけでなく、愛情深い方法で彼を愛する彼の花嫁となるためでもあります。
2日	❶出エジプト記において、三一の神と関係のある二つの強調されている事柄とは何でしょうか？ ❷出エジプト記第 40 章で、わたしたちはどのようにして三一の神の満ち満ちた予表を見ますか？	❶それは神の御使い（あるいはエホバの御使い）と、神の霊です。御使いは、神によって遣わされた者です。神の霊は、神から来て人に届き、さらに深い意味で、人の中へと入る方です。わたしたちに遣わされる方はわたしたちに来てもわたしたちの中へと入りませんが、その霊はわたしたちの中へと入ることによって、客観的にだけでなく主観的に、神から来てわたしたちに届きます。 ❷わたしたちは出エジプト記第 40 章で、一回目に、全体的で、完全な幕屋を見ます。幕屋が起こされたすぐ後、雲が下って来てそれを覆い、栄光が入って来てそれを満たしました。幕屋は建てられ、雲によって覆われ、栄光で満たされたとき、三一の神の満ち満ちた予表となりました。
3日	❶出エジプト記第 12 章から 18 章における、各章の要点を説明してください。 ❷出エジプト記の基本的な観念を説明してください。	❶出エジプト記第 12 章から第 14 章で、神の民は彼の贖いと救いを経験しました。第 15 章、第 16 章、第 17 章で、彼らは神の備えを享受しました。苦い水は甘くされました。民はエリムで十二の泉と七十本のなつめやしを享受しました。彼らはマナと、打たれた岩からの生ける水にあずかりました。“第 18 章は王国の絵、予表です。 ❷出エジプト記は、神が彼の民をご自身以外のあらゆるものから救出するのを願っておられること、すなわち彼が彼らを神でないあらゆるものから救い出すのを欲しておられることを啓示します。エジプトからの脱出の後、神の民は天のビジョンを見ました。彼らはそれによって、神ご自身を知り、それに加えて、神に符合する生活を知るようになりました。そして彼らは地上における神の住まいとして建造されることができました。
4日	❶出エジプト記の全体的な展望が、神の住まいを建造するための神の救いであることを説明してください。 ❷わたしたちが、天然の観念、もしくは神聖な、霊的な観点から出エジプト記を読む時、どのような違いがありますか？	❶この書の初めの十七の章には、神がいかに彼の民を救い、救い出し、救出し、荒野で彼らのために備えたかの描写があります。そして神は彼らをシナイ山に連れて来て、彼らに彼の住まいの建造のビジョンを与えます。それは、彼らがこのビジョンにしたがって神の住まいを建造するためです。 ❷もしわたしたちが天然の観念にしたがって出エジプト記を読むなら、律法を与えることを強調するでしょう。神がどのようにモーセを通して律法、規定、おきてを与えたかの記録です。しかしながら、わたしたちはこの書を読むとき、神聖で、霊的な観点を持っているなら、出エジプト記はおもに律法を与える物語ではなく、神がどのように彼の選ばれた民を救い、彼らに天のビジョンを与えて、彼らが地上で神の住まいを建造することができるようにしたかの記載であることを認識するでしょう。
5日	❶もしわたしたちの祈りの生活に召会の建造が考慮にないなら、祈りが長く続かないのは何故でしょうか？ ❷神の選ばれた民が手順を経て、最終的に天幕の召会生活へともたらされる事を説明してください。	❶もしわたしたちの祈りの生活に召会の建造が考慮にないなら、わたしたちの祈りはあまり長く続かないでしょう。しかし、わたしたちが祭司職と王職を持ち、幕屋、召会の建造を顧慮するなら、わたしたちの祈りの生活は重くならないでしょう。そうではなく、それは祭司職と王職によって支えられ、召会の建造を顧慮するでしょう。 ❷わたしたちは過越の小羊によって贖われており、荒野を通って行程を行き、キリストを天のマナとして経験し、彼を裂かれた岩からの生ける水として享受しました。最終的に、わたしたちはシナイ山にもたらされました。そしてここで召会生活を持ちます。それは、集会の天幕の周りのイスラエルの子たちの生活によって予表されます。ここ集会の天幕で、わたしたちは神の臨在と栄光の中で、神を持っています。ここでわたしたちは彼の住まいとなり、彼はわたしたちの住まいとなられます。これは相互の住まいです。
6日	❶召会が建造されるために、わたしたちはどのように協力すべきですか？ ❷創世記と出エジプト記、二つの書の始まりと終わりを比べてみてください。	❶召会はどんな天然の材料をもっても、またキリストをもってさえ直接、建造されるのではありません。そうではなく、それはわたしたちの経験となったキリストをもって建造されるのです。召会が建造されるのは、復活の中で、また天上でわたしたちによって所有され、享受され、経験されたキリストをもってです。 ❷創世記の最後の節は言います、「ヨセフは……死んだ．……彼はエジプトで棺の中に納められた」。出エジプト記は、エジプトで奴隷として仕える神の民の絵をもって始まります。キリストの贖いはわたしたちを、エジプトのサタン的な奴隷状態から連れ出して、自由の地（荒野）へともたらしました。荒野において、神のさらに進んだ活動は、わたしたちを栄光化された幕屋にもたらします。
まとめ	創世記では 9 人の偉大なる人物が語られています。最後のヤコブとヨセフについては、彼らの霊的経験は高嶺に到達した。しかし結びでヨセフは死に、エジプトで棺に納められました。これは人類の堕落の光景です。主に感謝します！神の完全な救い（過ぎ越し、エジプトからの脱出、紅海を渡る）また備え（マナ、活ける水）を通して、神の山（ホレブの山）へともたらされ神の幕屋の啓示を受けました。最終的に、神は一つの建造された住まい、すなわち神と神の選ばれた民との相互の住まいと成りました。	